国語科　夏休み特別講座

H26. 8. 18

単元を貫く言語活動　その2

これまでも、言語活動の充実を意図した実践が行われてきました。授業改善のためには、それを生かした**単元構想**をすることが重要です。

４つの段階の順序を踏まえて単元構想を行う。

1　単元目標（ゴール）を設定する。

児童生徒に身に付けさせたい力である、単元目標（ゴール）を明確にする。

→　学習指導要領で示された指導事項や評価規準等を参考にする。

→　年間指導計画により、どこで今後どのように発展していくのかという系統性を確認する。

2　単元に関する児童生徒の実態を把握する。

単元の目標（ゴール）に関わる児童生徒の実態を把握する。

→　前単元の指導で身に付いていない力が、本単元の指導の重点となる。

3　言語活動を選ぶ。

単元目標（ゴール）にふさわしい、最適な言語活動を選ぶ。

→　教材や言語活動の特質を分析する。

→　児童生徒が「やってみたい」「おもしろそうだ」という興味関心を示すものにする。

4　単元の展開を構想する。

何を、どのような順序で、どのような活動を通して学習するか決める。

→　言語活動は単元を貫いて位置付ける。

（単位時間と言語活動の関連付けを図る。）

これまでの単元構想の課題

○　数多くの活動をするため、学習指導要領の指導事項と単元目標の関わりが曖昧になる。

○　児童生徒の実態と言語活動が、かけ離れている。

○　身に付けさせたい力と言語活動がつながらない。

○　単元を貫くという意識が薄い。

単元構想の改善への視点

○　学習指導要領の指導事項をもとにゴールを明確にする。

○　児童生徒の興味関心を引く言語活動を選択する。

○　言語活動と身に付けさせたい力の関連が児童生徒に理解できるものとする。

○　言語活動は、単元を貫いて計画する。

ここに注意！

授業実践における単元構想上の課題として、「第二次の教材文の学習と第三次の活用として行う言語活動の関連が不明確になりがち」「活用の場を設定したにもかかわらず、児童生徒に活用力が十分定着しない。」ということがあげられます。

単元構想作成の際にも、単元を貫く言語活動を意識する。

４つの段階の順序を踏まえずに、指導書に書いてあるからという理由で言語活動を決定し、単元構想を行うと、「児童生徒は活動していたが、そこから何を学んだのか分からない。」という授業となりがちです。

４つの段階を踏むことにより、指導のねらい、児童生徒の実態、教材や言語活動の特質、言語活動と単位時間の関連が明確になる。

次回は、具体的な教材を例に、４つの段階を踏まえながら単元を構想すること。そして、**単元を貫く言語活動**の重要性について考えていきましょう。